

郡栗津温泉で、最初に湯宿を営んだものは法師湯であつた。後年のものながら螢の光に、法師湯善五郎窮迫して、文化の初め既に断絶せんとしたのを、小松館屋清助と云者善五郎にゆかり有て後見し、十年にして身代を回復したことが書いてある。

**ホウジュツ 炮術** 西洋流鐵炮射撃の術をいふ。嘉永四年の令に『近年御屋敷内(江戸)に角場被仰付、追々炮術稽古被仰付候。』と見える。従来とても鐵炮はあるが、炮術とは言はなかつた。

**ホウシユンイン 芳春院** (一) 関原―前田利家の妻。名は松。天文十六年七月九日尾張に生まる。生父は篠原主計にして、後高島定吉を義父としたから、篠原氏とも高島氏ともいはれる。その利家に嫁した年紀は詳かでないが、永祿二年には長女が生まれて居る。芳春院が最も女丈夫たる面目を發揮したのは、天正十一年六月廿一日柳瀬附近の敗戦に、利家が府中へ引上げ、翌日秀吉の利家を訪うて和議を講じた際の應酬であり、事は川角太閤記の各文に由つて活けるが、如く描かれて居る。慶長四年利家薨後、利長の異圖を懐くとの訛傳あるや、利長は家康の要求に應じ、芳春院を買たらしめることを諾したので、芳春院は、五月二十日村井長頼を従へて伏見を發し、六月六日江戸に入つた。十九年五月利長薨じ、六月芳春院は秀忠に請うて國に就いたが、その江戸に在ること前後十五年であつた。元和三年七月十六日金澤城に歿、享年七十一。法號は芳春院華嚴宗富大姉。

(二) 肖像―芳春院夫人の肖像にして總持寺に藏せられるものは、象山徐芸の贊する所で、

『奉』贊芳春院壽影。功德無窮佛閣僧。千門萬戶碧嶂嶺。看々二世安身處。日夜香華不盡燈。前惣持象山叟書焉。』とある。畫は探幽の筆と傳へたが、徐芸は元和五年に歿し、探幽は慶長十七年生であるから時代が合致せぬ。明治三十八年四月内務省之を國寶に指定した。その外鹿島郡長輪寺にも同肖像がある。

**ホウシユンイン 芳春院** 鳳至郡門前の總持寺山内に在つて、塔頭妙高庵の所屬であつた。慶長五年前田利家の夫人芳春院之を建て、一門の冥福を祈るが爲に位牌料として寺領三十石を寄進し、金澤寶圓寺大透圭徐の法弟象山徐芸を延きて開基たらしめた。明治十一年再建してその廢頽を起した。

**ホウシユンイン 芳春院** 京都大徳寺の塔頭である。前田利家の薨後、その夫人は落飾して芳春院と號した。夫人素より大徳寺の春屋宗圓の學徳を慕ひ、その教を受けたが、ここに至りて益佛門に歸依すること深く、慶長十二年宗圓に謀つて新たに伽藍を大徳寺の塔頭に造營せしめ、翌年工を竣つて之を芳春院と號し、宗圓の法弟玉室宗珀をして開山たらしめた。

**ホウシユンインマル 芳春院丸** 金澤城内二丸の地をいふ。慶長十九年六月前田利家の後室芳春院は江戸から歸り、本丸に入城したが、次いで二丸に新殿を造營した。二十年四月落成し、九月移徙の儀を行ひ、元和三年七月十六日この館で逝去した。故に當時この丸を芳春院丸というたと見える。

**ホウジヨウアカグスリ 北條赤薬 堀の赤薬**とも呼び、藩士堀氏の家傳であつた。この薬は元前田家の傳法であつたが、利常の時伊藤内膳に其の法を譲つた。然るに伊藤氏の婿堀才之助は、勝手不如意の爲家祿を召上げられ、石川郡鶴來村へ在郷を命ぜられたので、薬法を才之助に與へて活計の助たらしめた。才之助の子五兵衛を経て、その子六郎兵衛に至り、寶永年中興力に召抱へられて鶴來から金澤へ出た。前記家祿を召上げられた才之助といふのは、大坂の役に銃將であつた才之助の子であらう。

**ホウジヨウウチクニ 北條氏邦 幼名助五郎、後安房守** 北條氏政の弟で武州鉢形城主であつたが、天正十八年の役に前田利家に降伏して千俵を賜はり、鹿島郡津向に置かれた。氏邦卒後子庄三郎が紫野大徳寺の喝食であつたのを千石で召出され、名を采女と改めて前田慶次郎の女婿とした。采女の子を主殿介といひ、亦千石を相続して、寛永中前田利常の小々將となつたが、主殿介に男子なく、寛文四年八月廿一日女子龜に傳十人扶持を賜はつた。

**ホウシヨウジ 寶勝寺** 金澤蛤坂町に在つて、太白山と號し、臨濟宗に屬する。寛永八年僧千岳の建立。文化十二年當時の住僧破戒の罪發覺し、十月七日野町刑法場で磔刑に處せられたが、寺號は繼續した。

**ホウシヨウジ 法照寺** 金澤櫻島に在つた。英久山と號し、日蓮宗に屬する。俗に吹上の法照寺と呼んだ。由來書に、京都本正寺末で、正保元年金澤妙法寺の先住一空院日蓮之を能美郡小松に建立したが、延寶元年石川郡泉野新村領地子地に轉じたたとあつて、極めて小院であつた爲、明治廢藩の際檀家を六斗林妙感寺に合併し、その堂宇を毀つた。

**ホウシヨウジ 法性寺** 鳳至郡川島に在つて、眞宗東派に屬する。

**ホウジヨウジ 放生寺** 金澤日吉町に在つて養雲山と號し、曹洞宗に屬する。元和元年津田遠江が龍松除盛をして再興せしめた。

**ホウジヨウジ 寶乘寺** 河北郡那に在つて日蓮宗に屬する。寺記に、曆應二年京妙顯寺の開山日像の弟子妙珍下つて之を建立した。寺内の七面堂は、鎮守として身延山から移したもので、一旦中絶の後寛永十四年二十代日養之を再建したとある。三州紀聞には『車村寶乘寺、七面明神、法華宗。日像上人開基の寺也。加州に日蓮宗の寺の始り也。』と記する。

**ホウジヨウトモトキ 北條朝時** ↓シヨウウキノウノヘン 承久の甥。

**ホウシヨウトモユキ 實生友于** 通稱彌五郎。能樂實生流十五代の宗家であつた。嘉永六年十二月家をその子石之助(後九郎知榮)に譲り、安政三年の頃江戸を去つて金澤に來り、文久三年七月十四日その寓所淺野川天道寺で歿した。享年六十五。墓は卯辰日蓮宗全性寺にある。友于の金澤に來た時友と稱する一女子があつたが、友于の歿後壽命によつて、ツレ師直江權三郎の子權作を婿とし、服部彌五郎を冒さしめた。服部は實生家の古い姓であつたからである。

**ホウシヨウボウ 法性坊** 石川郡松任に在つて、眞宗東派に屬する。

**ホウシヨウリュウ 實生流** 加賀藩の初期に於ける能樂は、金春流又は觀世流で、就中前者最も勢力あつたが、前田利常の時に至り、初めて江戸の實生大夫を祿仕せしめたやうで

藤内膳に其の法を譲つた。然るに伊藤氏の婿堀才之助は、勝手不如意の爲家祿を召上げられ、石川郡鶴來村へ在郷を命ぜられたので、薬法を才之助に與へて活計の助たらしめた。才之助の子五兵衛を経て、その子六郎兵衛に至り、寶永年中興力に召抱へられて鶴來から金澤へ出た。前記家祿を召上げられた才之助といふのは、大坂の役に銃將であつた才之助の子であらう。